

令和7年度

事業報告書



社会福祉法人尾鷲市社会福祉協議会

理念

尾鷲市のだれもが
安心して生活できるまちづくりをすすめていく

職員心得

- 一、笑顔であいさつ
- 一、責任ある行動
- 一、思いやりを持って接する

目次

I	総務・地域福祉係	1
II	生活支援係	
	おわせ生活サポートセンター クローバー	17
III	高齢者相談係	
	地域包括支援センター	30
IV	障がい相談係	
	紀北地域障がい者総合相談支援センター結	36
V	居宅介護支援係	
	居宅介護支援事業所	45
VI	介護サービス係	
	訪問介護事業所	48
	訪問入浴事業所	51
	尾鷲社協デイサービスセンターいきいき	52
VII	輪内高齢者サービスセンター	54

I 総務・地域福祉係

総務・地域福祉係

1. 会務の運営

適正な法人運営と円滑な事業推進を図るため、次のとおり理事会並びに評議員会を開催した。

(1) 理事会

第1回 令和7年6月5日 出席者 11名

- 議題
- ・ 令和6年度事業報告について
 - ・ 令和6年度決算について
 - ・ 令和7年度【第1回補正予算】資金収支予算について
 - ・ 評議員選任候補者の推薦について
 - ・ 評議員選任・解任委員会委員の選任について
 - ・ 評議員選任・解任委員会の招集について
 - ・ 令和7年度定時評議員会の招集について

- その他
- ・ 社会福祉充実残額について
 - ・ 職務の執行状況について

第2回 令和7年6月20日 出席者 13名

- 議題
- ・ 会長の選任について
 - ・ 副会長の選任について
 - ・ 常務理事の選任について
 - ・ 評議員選任・解任委員会委員の選任について

第3回 令和8年3月5日 出席者 12名

- 議題
- ・ 令和7年度【第2回補正予算】資金収支予算について
 - ・ 令和8年度事業計画について
 - ・ 令和8年度【当初予算】資金収支予算について
 - ・ 苦情解決第三者委員会委員の選任について
 - ・ 令和7年度第2回評議員会の招集について

- その他
- ・ 次回の理事会について
 - ・ 職務の執行状況について

(2) 評議員会

第1回 令和7年6月20日 出席者 29名

- 議題
- ・ 令和6年度事業報告について

- ・ 令和 6 年度決算について
- ・ 令和 7 年度【第 1 回補正予算】資金収支予算について
- ・ 理事の選任について
- ・ 監事の選任について

その他・社会福祉充実残額について

第 2 回 令和 8 年 3 月 24 日 出席者 26 名

- 議題
- ・ 令和 7 年度【第 2 回補正予算】資金収支予算について
 - ・ 令和 8 年度事業計画について
 - ・ 令和 8 年度【当初予算】資金収支予算について

その他・次回の評議員会について

(3) 監事監査

- ① 令和 7 年 5 月 14 日・15 日 監事 2 名
 - ・ 令和 6 年度の事業及び決算についての監査
- ② 令和 7 年 11 月 26 日 監事 2 名
 - ・ 令和 7 年 4 月～令和 7 年 9 月 定期会計監査

(4) その他の監査

- ① 令和 8 年 2 月 4 日 財政援助団体等監査(尾鷲市監査委員事務局)
- ② 令和 8 年 2 月 24 日 社会福祉法人指導監査(尾鷲市福祉保健課)

2. 事務局体制の強化

(1) 職員体制の強化

令和 8 年度職員体制の確保に向け、採用試験を実施

- ・ 採用者数 正規職員 1 名

(令和 7 年度退職者 正規職員 1 名、嘱託職員 1 名)

(2) 福祉関係資格取得奨励及び各種研修会への参加

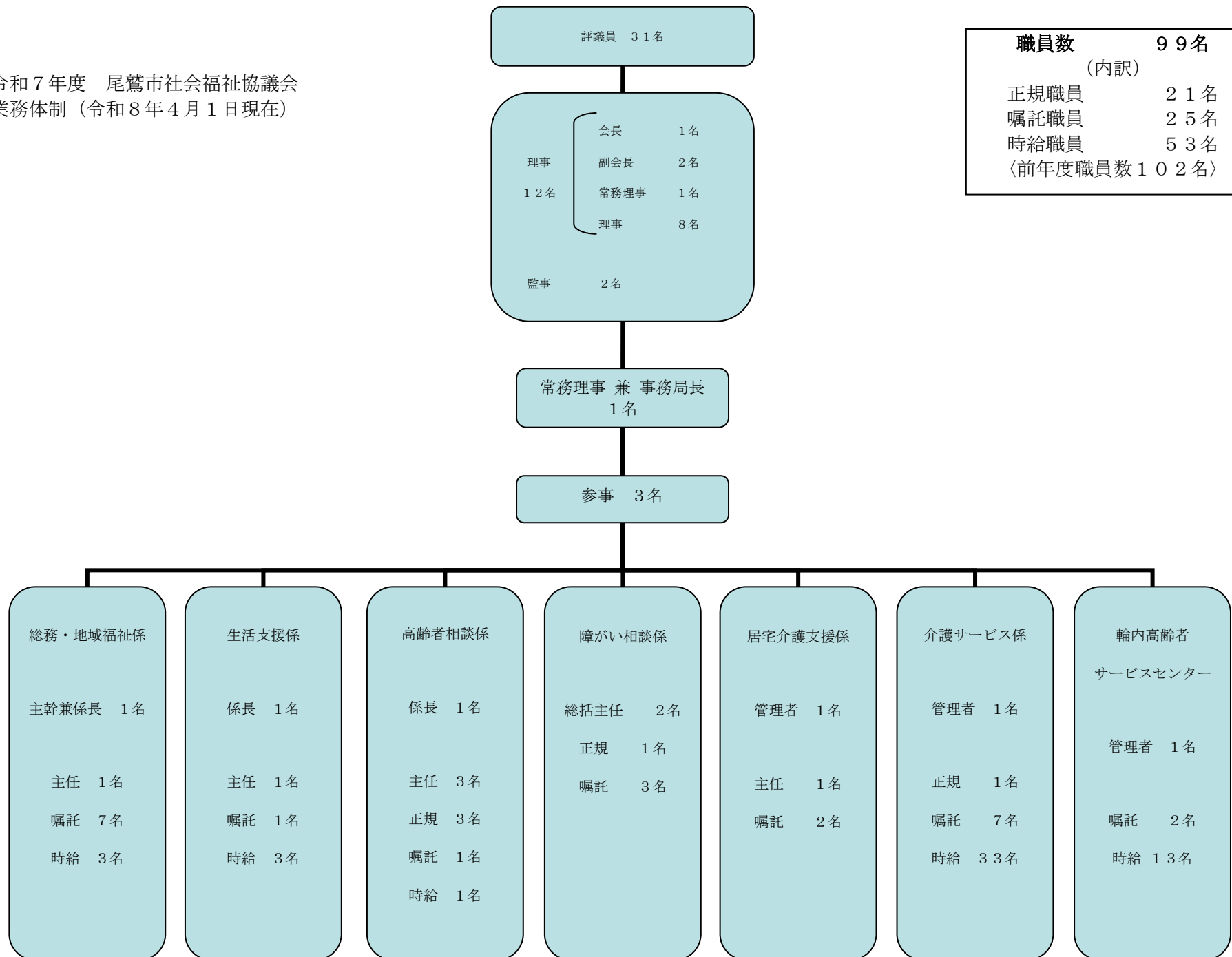
資格取得の状況	ケアマネジャー	1 名
	介護福祉士	2 名

(3) 活動基盤の改善・充実

会計・税務顧問契約の締結

関係法令等の改正により、高まる会計・税務の専門性に対応するため、引き続き税理士法人と顧問契約を締結し、適正な運営に努めた。

令和7年度 尾鷲市社会福祉協議会
業務体制（令和8年4月1日現在）



3. 地域福祉財源の確保

(1) 補助事業・委託事業などの公的財源の確保

(2) 自主財源の確保

① 善意銀行の運営

市民の善意により、現金物品が寄贈された。

【現金】一般預託	8 件	294, 772 円
指定預託	0 件	0 円
合 計	8 件	294, 772 円
※前年度合計	9 件	442, 989 円

② 社協賛助会費制度の運営

会員制度による住民参加、地域福祉活動の充実を目標に、民生委員児童委員、地区福祉委員会などの協力、連携により賛助会費の募集を行い、地域福祉活動の財源確保に努めた。

(単位：円／件)

	令和 7 年度		令和 6 年度	
	金額	件数	金額	件数
賛助会員	656, 000	609	780, 000	723
特別会員	315, 000	34	305, 000	32
計	971, 000	643	1, 085, 000	755

4. 福祉団体活動支援

(1) 尾鷲市老人クラブ連合会の活動支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに、社会奉仕活動への積極的な参加促進を支援した。

① 老人クラブ連合会活動の支援

15 クラブ・会員数 541 名

② 尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座の開催

10 講座 1, 659 名（前年度 9 講座 1, 215 名）

(2) 尾鷲市遺族会の活動支援

遺族会の活動を支援した。

① 尾鷲市戦没者追悼式（尾鷲市との共催）

開催日：令和 7 年 5 月 25 日

場 所：尾鷲市民文化会館

参列者：100 名

5. 苦情解決事業

苦情に対して社会性・客観性を確保するため第三者委員会を設置し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を行うため、苦情に対する職員の意識を高め、サービスの質の向上に取り組んだ。

(1) 苦情解決体制

苦情解決責任者 事務局長
苦情受付担当者 参事
第三者委員 3名委嘱

(2) 苦情内容・苦情件数

(単位：件)

苦情の内容	令和7年度	令和6年度
ケアの内容に関わる事項	0	0
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理・遺産・遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他 (職員の言動・交通マナー・施設管理)	0	0
本会以外への苦情等	0	0
合計	0	0

6. マイクロバス貸出事業

マイクロバスを貸出して、各種団体の活動支援を行った。

利用団体：9団体（前年度 11団体）

利用回数：延べ16回（前年度 延べ23回）



7. ご当地キャラクター

尾鷲社協ご当地キャラクター、尾鷲よいとこヤーヤにゃんを用いて尾鷲の観光PRをするとともに、福祉へのイメージアップを図った。

(1) 出演

職員がスタッフとして市内のイベント出演。

出演回数：2回（前年度2回）

尾鷲市ちびっこ防災フェア・共同募金街頭募金

(2) 貸出

着ぐるみの貸出しを行った。貸出回数：15回（前年度9回）

(3) デザイン使用

出版物等にイラストの使用を許可した。件数：11 件（前年度 7 件）

8. 地域福祉活動の推進

(1) 地域福祉活動支援事業

① 地区福祉委員会の活動基盤強化

ア. 活動相談

イ. 地域課題解決に向けた支援

ウ. 活動の周知啓発

エ. 助成事業（基本助成、活動助成、新規結成助成）

✧ 基本助成（地区福祉委員会の運営費および活動費として）

助成数・助成額：11 団体 220,000 円

✧ 活動助成（各地区独自の活動費として）

助成数・助成額：9 団体 230,500 円

② ふれあいサロン活動の推進

ア. おしゃべりほのぼのサロン事業

高齢者の生きがいづくり・見守り支援を目的とした高齢者サロンを職員とボランティアの協力で実施した。梶賀地区では今年度 9 月より試験的に 1 回開催し、10 月より本格的に開始した。

のべ参加者数

（単位：人）

	尾鷲	九鬼	早田	三木里	梶賀 (9 月～)	合計
参加人数	141	32	19	70	46	308
前年度	118	27	38	75	0	258

イ. 百寿雀サロン事業（共同募金配分事業）

百寿雀を活用したふれあいサロンづくりを模索するため、体験会を実施した。

参加人数：福祉保健センター	のべ 297 人 (24 回)
矢浜コミュニティセンター	のべ 648 人 (98 回)
三木里コミュニティセンター	のべ 164 人 (20 回)
九鬼コミュニティセンター	のべ 448 人 (36 回)
宮之上小学校	のべ 167 人 (14 回)
林町会館	のべ 75 人 (11 回)
須賀利コミュニティセンター	のべ 71 人 (8 回)

計	1,870 人 (211 回)
前年度	1,228 人 (118 回)



ウ. 助成事業（ふれあいサロン助成）

ふれあいサロン活動に取り組む団体に対して助成金による活動支援を行った（共同募金配分事業）。

助成額：180,000 円（7 団体）

活動実績

実施団体	回数	のべ参加人数
梶賀地区福祉委員会	6	56
曾根地区福祉委員会	7	89
坂場地区福祉委員会	1	5
天満地区福祉委員会	2	38
古江地区福祉委員会	1	31
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	18	306
笑って歌ってお楽しみ会	11	199
合計	46	724

③ ふれあい・見守り訪問活動の推進

ア. 助成事業（あったかふれあい訪問活動助成、友愛活動助成）

☆ あったかふれあい訪問活動助成

地区福祉委員会が行うふれあい訪問活動に対し、助成金による活動支援を行い、住民主体による福祉ニーズの発見を促進した。

助成額：731,000 円（11 地区）

活動実績

地区福祉委員会	回数	のべ訪問件数
賀田地区福祉委員会	3	275
矢浜地区福祉委員会	2	250
三木里地区福祉委員会	2	268
古江地区福祉委員会	4	424
坂場地区福祉委員会	4	547
曾根地区福祉委員会	3	132
梶賀地区福祉委員会	2	100
九鬼地区福祉委員会	1	139
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	3	262
なみき地区福祉委員会	2	533
天満地区福祉委員会	2	84
計	28	3,014

☆ 友愛活動助成

尾鷲市老人クラブ連合会が行う友愛活動に対し、助成金による活動支援を行った（共同募金配分事業）。

助成額：105,000 円

活動実績

取り組みクラブ数	のべ訪問件数
15 クラブ	462 名

④ 子育て支援事業の推進

ア. 子育て応援イベントの開催（共同募金配分事業）

子育てめっけもん広場のオープニングイベントとして『あそびの広場』を開催し、6 月はストラックアウト・玉入れ・輪投げ、12 月はエアジャンプ、制作（6 月は短冊・七夕かざりづくり、12 月はクリスマスリースづくり）などを行った。

会 場 尾鷲市福祉保健センター1 階ロビー

開催日 第 1 回 令和 7 年 6 月 28 日（土） 参加者 96 名

第 2 回 令和 7 年 12 月 6 日（土） 参加者 103 名



イ. 子育てグッズのリサイクル（共同募金配分事業）

☆ 子育て用品「無料レンタル」

不要となったチャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッドの寄付を受け、必要とする方に無料で貸し出した。

利用件数：70 件（前年度 56 件）

☆ 子育て用品の譲り合い仲介

チャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッド以外の不要子育て用品について、譲り合いの仲介を行った。

仲介件数：9 件（前年度 4 件）

☆ 子育てめっけもん広場

不要となった子育て用品の譲り合いを支援するため、交換会「子育てめっけもん広場」を開催した。

- 第1回 令和7年6月28日(土)～7月7日(月)
 提供者 45名
 来場者 92+96(イベント)=188名
- 第2回 令和7年12月6日(土)～15日(月)
 提供者 41名
 来場者 59+103(イベント)=162名



⑤ 子育て世帯訪問支援事業の推進

ア. 子育て世帯訪問の実施

- ✧ 尾鷲市から委託を受け、家事や子育て等に不安や負担を抱えている世帯に対し、家事支援、不安や悩みの傾聴、相談並びに助言、情報提供などを行った。

登録世帯：1世帯 延べ訪問回数 26回(前年度 3回)

(2) ボランティア・市民活動センター事業

① ボランティア団体の活動支援

ア. 活動相談：3件

イ. 地域課題解決に向けた支援

- ✧ 住民参加型生活応援事業「助っと」

令和4年度に立ち上げた、住民同士の助け合いのしくみ「助っと」を継続実施。買い物支援、ごみ出し支援などを実施した(共同募金配分事業)。

3月31日現在

会員登録(単位：人)	支援会員	23
	利用会員	56
実施状況(単位：回)	ごみ出し支援	653
	買い物支援	142
	その他の支援	70

- ✧ 輪内買い物支援「いこらい」実証実験

住民ボランティアと協働した買い物支援を、曾根町、梶賀町、古江町、九鬼町にて実施。

3月31日現在（単位：人）

利用者数 （地区別）	曾根町	9
	梶賀町	11
	古江町	16
	九鬼町	11
	計	47
実施状況 （年間）	曾根町・梶賀町コース	122
	古江町コース	102
	九鬼町コース	76
	計	300



ウ. 助成事業（ボランティア活動助成）

登録ボランティア団体を対象に、ボランティア・市民活動の促進及び充実を図ることを目的として助成金による支援を行った。

助成額：222,268 円（12 団体）

活動実績

助成団体	内容
声のボランティアやまびこの会	福祉・医療・保健の増進
尾鷲手話サークルかたつむり	福祉・医療・保健の増進
おわせ食の会	シニアカフェ、食の啓発
みえ防災コーディネーターおわせ	環境保全活動
OWASE ラフター（笑い）ヨガクラブ	学術・文化・芸術・スポーツ
オカリナささゆり	学術・文化・芸術・スポーツ
ウェークエンドの会	障がい者の社会参加の場づくり
スポレクおわせ	社会参加促進・イベント講師
天狗倉山まるごとプロジェクト	世代間交流、環境保全
祐結会	学術・文化・芸術・スポーツ
民謡 美楓会	学術・文化・芸術・スポーツ
尾鷲藪漕隊	環境の保全・子どもの健全育成

② ボランティア活動保険の加入補助

ア. 助成事業（ボランティア活動保険加入助成）

登録ボランティアを対象にボランティア活動保険の加入促進を目的として助成金による支援を行った。

助成額：31,900 円（319 名）

加入数：453 名

③ 災害ボランティア育成（共同募金配分事業）

ア. 災害ボランティア講座

災害ボランティアについての関心の維持と、意義の再確認のためのきっかけづくりとして、災害ボランティア講座を開催した。

科目1 令和7年10月25日（土） 参加者 14 名

会場：尾鷲市福祉保健センター4階 多目的ホール

内容：災害ボランティアセンターの役割について

科目2 令和7年11月2日（日） 参加者 86 名

会場：熊野市保健福祉センターおよび熊野市内

内容：ICTを活用したニーズ受付訓練

東紀州5市町合同災害ボランティアセンター
運営訓練



④ 災害ボランティアセンターの基盤強化

ア. 災害ボランティアセンター関係者会議

東紀州ブロック社協広域連携協議会で、災害時の広域連携を想定した初動期における社協間の連携を想定したマニュアルの確認と見直し、および合同訓練の開催に向けた調整について話し合った。

第1回 令和7年6月2日（月）

第2回 令和7年9月2日（火）

⑤ 福祉教育の推進

ア. 福祉教育プログラムの提供

福祉協力校に対して、福祉教育プログラムを作成し、様々な授業で活用した。



イ. 福祉作品コンクールの募集

福祉教育の一環として、小・中学生を対象に、『ありがとう』・『感謝』をテーマとして標語作品を募集し、入賞作品を表彰した（共同募金配分事業）。

応募総数 223 点

表彰者 小学校低学年の部 3 名 小学校中学年の部 3 名
小学校高学年の部 3 名 中学校の部 3 名

⑥ 助成金による福祉教育の推進

ア. 助成事業（福祉教育助成金）

福祉協力校〈小学校 5 校、中学校 2 校、高校 1 校、特別支援学校 1 校〉を指定し、各学校の福祉教育の充実を図るために助成を行った（共同募金配分事業）。

助成金額 7 校 275,856 円

活動実績

福祉協力校	内容
尾鷲小学校	—
宮之上小学校	福祉の授業、環境美化
矢浜小学校	体験学習、地域交流、環境学習
向井小学校	環境美化、施設慰問、
賀田小学校	環境美化、地域交流
尾鷲中学校	環境美化、地域交流
輪内中学校	地域交流、環境整備、人権教育
尾鷲高校	—
くろしお学園おわせ分校	環境美化・清掃、地域交流

(3) 生活支援体制整備事業（尾鷲市からの受託事業）

① 生活支援コーディネーターの配置（2 名）

ア. 活動内容

（単位：回）

活動内容	件数
アセスメント（情報収集・課題分析）	32
相談対応	48
連絡・調整	53
支援活動のコーディネート	46
地域ケア会議	3
地域での協議	10
関係機関との協議	7
周知・啓発	6
人材育成	5
研修・視察	2
その他	9
のべ活動回数	221

② 地域における協議体制の整備

市内を生活圏の層に分け、それぞれの階層で地域の生活支援を協議する場を整備した。

ア. 地域支え合い応援会議の運営の運営（第一層協議体）

尾鷲市全体のことを話し合う協議体として、地域支え合い応援会議を組織し、生活支援体制整備の現状確認や今後の方針について協議した。

開催日：令和7年10月28日（火）

内 容：「助っと」・「いこらい」の報告

わごころ会議での協議状況

通いの場パンフレットの作成について

イ. わごころ会議の運営（第二層協議体）

日常生活圏域での協議体として、わごころ会議を開催し、具体的な生活支援活動について協議した。

第1回 令和7年8月21日（木） 参加者6名（旧町内）

令和7年8月25日（月） 参加者15名（周辺地区）

内容：ささえ合いによる移動支援について

第2回 令和8年3月19日（木） 参加者13名

内容：ささえ合いによる移動支援について

通いの場へのボランティア送迎について



ウ. 地域福祉懇談会の運営（第三層協議体）

より身近な地域で話し合う協議体として、地区懇談会を開催し、具体的な生活支援活動について協議した。

（九鬼、古江、賀田、曾根、梶賀）

③ 地域の支え合い活動に関する周知・啓発

地域活動の紹介通信「わごころ通信」の発行（10月・3月）

全戸を対象に地域における支え合い活動の見える化を目的として、地域活動を紹介する「わごころ通信」を発行した。

第13号：「わごころ会議」の紹介、移動支援の話し合いについて、「わごころ会議」への参加の呼びかけ

第 14 号：『わがらの町の暮らしささえ合い塾』の報告
通いの場へのボランティア送迎について

④ 生活支援サポーターの養成

生活支援サポーター養成講座「わがらの町の暮らしささえ合い塾」を開催し、住民の支え合い意識の向上を図るとともに、地域における支え合い活動のきっかけづくりを行い、延べ 55 名の参加をいただいた。

第 1 回 令和 8 年 1 月 13 日（火） 参加者 18 名

内容：公的支援の隙間とささえ合い

講師：尾鷲市地域包括支援センター職員

第 2 回 令和 8 年 1 月 20 日（火） 参加者 18 名

内 容：尾鷲市内におけるささえ合い活動を紹介！

講 師：尾鷲市社会福祉協議会職員

第 3 回 令和 8 年 1 月 27 日（火） 参加者 19 名

内 容：移動支援の必要性とささえ合い

講 師：尾鷲市社会福祉協議会職員

⑤ 移動支援の担い手の養成

移動支援の担い手育成を目的に、福祉有償運送運転者及びセダン等運転者講習

開催日：令和 8 年 2 月 21 日（土）・22 日（日）

会 場：尾鷲市福祉保健センター

内 容：福祉有償運送運転者・セダン等運転者講習（講義＋実技）

講 師：全国移動サービスネットワーク認定講師

参加者：12 名



（４）援護事業

① ひとり親世帯就学応援事業

ひとり親家庭の小学校卒業児童に対し、中学校への就学応援品として図書カードを贈呈した（共同募金配分事業）

対象児童 17 名（前年度 21 名）

② 災害義援金・海外救援金の募集

（単位：円）

義援金・救援金	寄付額
令和 6 年能登半島地震災害義援金	20,944
令和 6 年 9 月能登半島大雨災害義援金	14,306
令和 7 年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	5,704

令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	30,000
令和7年8月6日からの大雨災害義援金	2,621
令和7年青森県東方沖地震義援金	100
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	1,304
ウクライナ人道危機救援金	582
合 計	75,561

※日本赤十字社を通じて寄付

③ 災害時援護事業

市内で発生した火災の被災世帯に対し、緊急セットと毛布、タオルケット、見舞金を配布した。

被災件数：1件（1世帯）

配布物：緊急セット1個 毛布1枚 タオルケット1枚 見舞金

（5）広報啓発事業

① 尾鷲市社会福祉大会（尾鷲市との共催）

多年にわたり社会福祉事業・社会福祉活動に功績のあった方々を顕彰するとともに、社会福祉のさらなる充実を目指すことを目的に、尾鷲市社会福祉大会を開催した。

開催日：令和7年11月30日（日）

場 所：尾鷲市中央公民館

内 容：第一部 顕彰

尾鷲市長表彰 9名

尾鷲市社会福祉協議会会長表彰 18名

第二部 福祉作品コンクール表彰 12名

実践報告『地域防災と助け合いについての講演』

尾鷲市防災危機管理課 久保将太 氏



② 広報紙「社協だより」の発行

年4回（6月・7月・10月・3月）広報紙「おわせ社協」を発行した。

③ ホームページ、Twitter、Facebookでの情報発信

ホームページ、Twitter、Facebookを活用し、情報発信を行った。

(6) 募金活動支援

① 赤い羽根共同募金（三重県共同募金会）への協力

民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者と共に、募金活動に協力した。

一般募金（運動期間：令和7年10月1日～令和8年3月31日）

募金実績

（単位：円）

	令和7年度	令和6年度	比較
目標額	2,482,800	2,323,300	159,500
実績額	1,846,392	1,951,272	▲104,880
達成率	74.3%	83.9%	▲9.6%

募金種別による内訳

（単位：円・件）

	令和7年度		令和6年度		比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別	769,710	1,712	912,400	2,489	▲142,690	▲777
法人	573,451	97	597,676	99	▲24,225	▲2
街頭	63,349	4	75,450	4	▲12,101	0
学校	116,275	9	109,060	9	7,215	0
職域	136,110	32	127,604	25	8,506	7
イベント	65,476	8	42,070	5	23,406	3
個人	3,617	5	10,700	7	▲7,083	▲2
その他	118,404	35	76,312	31	42,092	4
計	1,846,392	1,902	1,951,272	2,669	▲104,880	▲767

② 日赤募金（日本赤十字社三重県支部）への協力

日赤奉仕団（尾鷲市婦人の会連絡協議会）、自治会等の協力を得て、募金運動に協力した。

社資増強運動期間：令和7年5月1日～5月31日

募金実績

（単位：円）

	令和7年度	令和6年度	比較
目標額	2,406,000円	2,455,000円	▲49,000円
実績額	1,275,716円	1,608,506円	▲332,790円
達成率	53.0%	65.5%	▲12.5%

Ⅱ 生活支援係

おわせ生活サポートセンター クローバー

1. 総合相談

(1) 総合相談事業

① 総合相談事業

本会の理念である「だれもが安心して生活できるまちづくり」に基づき、相談者一人ひとりの状況や思いに配慮しながら、生活の安定に向けた相談支援に努めた。

食料支援、就労支援、家計改善支援、および各種資金貸付等の支援施策の活用にあたっては、本人の意思を尊重しつつ、関係機関と適切な連携を図った。それぞれの抱える課題に応じ、早期の解決や生活の立て直しに向けた、柔軟な支援の展開に繋げた。

また、判断能力が必ずしも十分ではない方への権利擁護支援においては、多職種との連携を通じて、本人の置かれた環境や意向を丁寧に汲み取るよう努めた。日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用を視野に入れ、個々の尊厳を損なうことなく、地域で穏やかに暮らし続けられるための体制整備を推進した。

(ア) 相談実績

相談件数：50 件

(単位：件)

属性	令和7年度	令和6年度
困窮者	38	40
うち高齢者	(19)	(18)
うち障がい者	(10)	(15)
高齢者	9	10
障がい者	2	4
その他	1	2
計	50	56

(相談内容に重複あり)

(単位：件)

相談内容	令和7年度	令和6年度
自立生活に関すること	5	9
家計管理に関すること	8	8
貸付に関すること	19	23
借金・滞納に関すること	4	4
成年後見制度に関すること	6	3
日常生活自立支援事業の利用	9	9
消費生活に関すること	0	0
虐待・権利侵害に関すること	1	0
生活支援に関すること	4	3
地域・人間関係に関すること	0	1
仕事に関すること	4	11
ひきこもりに関すること	2	2
住まいに関すること	1	1
その他	13	8
計	76	82

2. 生活再生事業

(1) 生活再生相談

① 生活困窮者自立相談支援事業（市受託事業）

相談支援においては、一人ひとりの思いに配慮しながら解決策を共に考え、個々の状況に即した生活再建計画の策定と改善に努めた。医療機関や行政機関等への同行支援を含め、本人の意向を尊重した柔軟な対応を図るとともに、専門的な課題については他機関と連携し、早期の生活安定に繋げた。

継続して実施している「ひきこもり家族支援（こもりカフェ）」では、参加者間の信頼と共感が深まり、自発的な交流が促進された。悩みを分かち合える貴重な休息（レスパイト）の場として定着しており、個々の心情を大切に作る温かなコミュニティの維持に努めた。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和7年度	令和6年度
相談件数	50	56
実利用人数	2	15
プラン策定件数	6	18
のべ対応 (支援申込み前含む)	554	931

(単位：件)

対応内容	令和7年度	令和6年度
電話相談	229	388
訪問・同行支援	106	221
面談	102	149
所内会議	45	42
支援調整会議(プラン策定・評価)	24	40
その他関係機関との会議	27	89
関係機関との照会・協議	10	1
その他	11	1
計	554	931

(イ) 支援体制の構築

ア 周知啓発活動

・相談窓口の案内チラシ配布および設置

福祉保健課、福祉保健センター、税務課、市民サービス課、水道部
各コミュニティセンター、尾鷲総合病院、紀北信用金庫、百五銀行、三十三銀行、郵便局、伊勢農協、東日本信漁連

イ 尾鷲市福祉保健課自立支援係との支援調整会議(開催回数：12回)

(ウ) ひきこもり家族支援 こもりカフェの開催

家族教室の開催9回(5月～3月)

参加者：2家族 延べ17人

経験者：1名 延べ5回参加

他機関：尾鷲市福祉保健課健康づくり係

尾鷲保健所、紀北地域障がい者総合相談支援センター結

(エ) ひきこもり家族 研修会参加 (主催：三重いのちの電話)

参加者：2 家族 2 人参加

② 生活困窮者家計改善支援事業（市受託事業）

税金や多重債務などの課題に対し、自己破産手続きの支援と並行して、生活再建に向けた家計管理の習得を促した。

家計管理が難しい背景には、障がいの特性や加齢に伴う能力の低下が影響しているケースも見受けられた。そのため、当センターのみで対応を判断するのではなく、地域包括支援センターや障がい者総合相談支援センター結等との共有に努めた。日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用も視野に入れつつ、各機関と歩調を合わせて、個々の状況に即した支援を検討した。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和 7 年度	令和 6 年度
相談件数	31	35
実利用人数	9	16
プラン策定件数	12	16

(イ) 対象者が抱える課題(支援決定者のみ)

(単位：件)

	令和 7 年度	令和 6 年度
税金の滞納	10	9
医療費の滞納	3	4
公共料金の滞納	9	8
債務（銀行や消費者金融など）	8	11
家計管理の問題	11	15
低所得	8	13
計	49	60

③ 生活困窮者就労準備支援事業（市受託事業）

生活リズムの安定や人間関係への不安など、社会生活を送る上での困難を抱える方に対し、一般就労に向けた前段階の準備として、基礎的な生活能力を育むための支援を行った。

障がい者就業・生活支援センター結等の関係機関と密に連携を図りながら、一人ひとりの歩幅に合わせた環境整備に努めた。対人面での不安やそれぞれの特性・意向を尊重しつつ、社会との接点を少しずつ広げ、次の一步を踏み出すための基盤づくりをサポートした。

（ア）相談対応

（単位：件）

	令和7年度	令和6年度
相談件数	1	3
実利用人数	1	3
プラン策定件数	1	3
のべ対応	8	104

（イ）支援により見られた変化

（単位：件）

見られた変化	令和7年度	令和6年度
就労開始	1	2
福祉サービスの利用	1	1
就職活動開始	1	2
健康状態の改善	0	1
障害者手帳取得	0	1
住まいの確保・安定	0	1
社会参加機会の増加	1	1
生活習慣の改善	0	0
対人関係・家族関係の改善	1	1
自立意欲の向上・改善	1	1
孤立の解消	1	1
精神の安定	1	1
計	8	13

(ウ) 就労体験の実施

受入先	令和 7 年度		令和 6 年度	
	延べ人数	延べ人数	延べ人数	延べ人数
NP0 法人おばら野（優・結）	0	0	1 名	14 日
計	0	0	1 名	14 日

(オ) 対応結果

(単位：件)

	令和 7 年度	令和 6 年度
一般就労	0	0
一般就労（障がい者枠）	0	0
福祉的就労（障がい者就労施設）	0	1
計	0	1

④ 被保護者就労支援事業（市受託事業）

生活保護受給者の方を対象に、就労に向けた面談を行い、本人の不安や希望を丁寧に汲み取ることに努めた。無理のない範囲で短期就労などの機会を検討し、それぞれの体調や意向を尊重しながら、社会との繋がりを維持するためのサポートを行った。

一般就労へ至る前段階として、多様な経験を積める「中間的就労」の場の重要性を認識し、既存の資源を有効に活用しながら、一人ひとりの特性に合った次のステップへの繋がりを共に模索した。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和 7 年度	令和 6 年度
相談件数	2	3
実利用人数	2	3
のべ対応	169	104

(イ) 対応結果

(単位：件)

	令和7年度	令和6年度
常勤就労	0	0
パート就労	0	0
派遣就労	0	0
短期就労	1	4
福祉的就労	0	1
その他(就労件数)	54	0
計	55	5

ア 関係機関との会議

- ・ 稼働能力判定会議

開催日：毎月開催

出席：市福祉保健課・社協

(2) 生活資金貸付事業

① 生活福祉資金貸付事業(受託事業)

本則の生活福祉資金貸付事業を実施したほか、三重県社会福祉協議会が新型コロナ特例貸付の利用者を対象に実施したフォローアップ支援等推進事業と協働して対象者のフォローアップを実施し、必要に応じて償還免除や償還猶予申請手続きを支援することで経済的自立をサポートした。また、新型コロナ特例貸付の償還免除者に対して、生活状況の把握や世帯の課題解決に向けた相談援助を行った。

(ア) 令和7年度新規貸付件数

(単位：件)

資金種類		令和7年度	令和6年度
福祉資金	福祉費(葬祭費)	0	1
	緊急小口資金	0	1
教育支援資金		1	0
計		1	2

(イ) 令和7年度完済件数

(単位：件)

資金種類		令和7年度	令和6年度
福祉資金	緊急小口資金	0	1
新型コロナ特例貸付	緊急小口資金	4	10
計		4	11

(ウ) 令和7年度償還免除件数

(単位：件)

資金種類		令和7年度	令和6年度
福祉資金	福祉費(住宅資金)	0	1
	緊急小口資金	1	0
新型コロナ特例貸付	緊急小口資金	0	3
	総合支援資金	0	4
計		1	8

(エ) 令和7年度末時点貸付件数

(単位：件)

資金種類		令和7年度	令和6年度
福祉資金	福祉費(葬祭費)	1	1
	障がい者自動車購入費	1	1
	技能習得費	1	1
	緊急小口資金	3	4
教育支援資金		12	11
新型コロナ特例貸付	緊急小口資金	18	22
	総合支援資金	32	32
計		68	72

② 福祉金庫緊急貸付事業

緊急かつ一時的に生活資金が不足し、ライフラインの停止など困難な状況に陥った世帯に対して生活資金を貸し付けた。食料支援事業など他制度も活用して生活機能を維持しつつ、併せて生活再建に向けた相談援助を実施した。

(ア) 令和7年度新規貸付件数・完済件数・償還免除件数

(単位：件)

種類	令和7年度	令和6年度
新規貸付件数	6	8
完済件数	4	4
償還免除件数	0	0

(イ) 令和7年度末時点貸付件数

(単位：件)

償還の状況	令和7年度	令和6年度
年度末時点貸付件数	15	13
定期的に返済している世帯	2	1
不定期であるが返済をしている世帯	2	5
令和6年度全く返済実績のない世帯	11	7

③ 借受人等関係者との関わり強化

借受人に対して定期的な架電を実施した結果、しばらく連絡が途絶えていた世帯と再びつながることができ、償還が再開した事例や、現時点では償還が困難であっても定期的に状況を確認できる関係性を構築できた事例があった。また、連絡がつながった世帯においても、複合的な課題を抱えており即座の解決が難しいケースや、継続的な見守りが必要なケースが見受けられた。そのため、関係性を維持し続けることを主眼に置いた伴走型支援を実施した。

(3) 緊急食料等支給事業

生活困窮世帯に対し、緊急的な食料支援を実施した。

食料提供の際に行う聞き取りを通じて、潜在的な課題の把握や信頼関係の構築を図ることができた。個々の状況に深く寄り添う支援を展開するための有効な一助となった。

- ① 生活困窮世帯等に対し食料支援を通じ、事業の周知を行った。
 - ・ みえ福祉の「わ」創造事業・・・緊急時物品等支援事業 0 件、就労活動支援交通費 0 件、セカンドハーベスト名古屋からの食料支援 6 件
 - ・ 本会独自事業および生活協同組合コープみえ、伊勢農業協同組合からの食料寄付を活用した食料支援 46 件、フードパントリー 0 件
- ② 食料寄付の受付
 - ・ 生活協同組合コープみえより、協定に基づき良品返品の商品（精米・食品など）の無償提供を受けた。
 - ・ 伊勢農業協同組合より、組合員や地域住民に協力を呼びかけ集まった未開封食料の食料寄付を受け付けた。
 - ・ 福祉保健センター1F ロビーに常設型フードドライブを設置し、社協職員や市民への食料品等の提供の呼びかけを行った。

3. 権利擁護事業

（１）日常生活自立支援事業[おわせ日常生活自立支援センター]（受託事業）

① 権利擁護の視点に立った利用者支援の実施

利用者の自己決定を尊重するという権利擁護の視点に立ち、必要な情報の提供や助言をし、本人の意思に寄り添いながら支援を行った。また、利用者の抱える課題について、関係機関と情報共有し、社会資源の育成につながるよう努めた。

（ア）相談実績

（単位：件）

		認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	令和 6 年度
相談		410	369	458	408	1645	1347
契約	新規	0	1	1	4	6	11
	解約	3	0	2	1	6	7
	継続	5	8	7	8	28	28

② 専門員・推進員・生活支援員の資質向上

専門員の連絡会議や情報・意見交換会、生活支援員等研修会等、スキルアップにつながる会議や研修会等に参加することで、必要な知識や情報を収集し、資質向上に努めた。

③ 成年後見制度への移行支援

新規相談の時点で判断能力が低下しており、成年後見制度移行までのつなぎ支援として対応していた利用者のうち2名については、成年後見人が選任された為、引継ぎを行なった。また1名については、家族が管理できる状況になった為、家族へ引継ぎを行なった。つなぎ支援の間も、金銭管理を適正に行ない、利用者が安心して生活できるよう努めた。

(2) 後見支援事業

① 尾鷲市成年後見支援センター事業(受託事業)

(ア) 広報業務

ア 成年後見制度利用促進講演会『医療・福祉関係者のための成年後見制度活用講座』の開催

目 的：成年後見制度の利用を検討する場面に関わる医療・福祉関係者を対象として、成年後見制度の基礎知識や、成年後見人との付き合い方、成年後見支援センターをはじめとした関係機関との連携の方法について理解を深めることで、病院や施設等での成年後見制度の円滑な利用と、尾鷲市における成年後見制度の利用促進、周知啓発を図ることを目的として開催した。

日 時：令和7年12月18日(木)10時00分から11時30分

場 所：尾鷲市立中央公民館 3階大会議室

講 師：一般社団法人三重県社会福祉士会権利擁護センターぱあとな
あみえ 井谷礼氏

内 容：①成年後見制度の概要

②成年後見人との付き合い方・関係機関との連携の方法

③事例紹介

来 場 者：35名



イ 事業の周知

尾鷲市成年後見支援センターを周知するためのチラシを作成し、尾鷲市役所や尾鷲市福祉保健センター窓口に設置した。また、相談対応時に配布し周知を図った。

(イ) 相談業務

ア 相談窓口の設置

・相談員の配置

おわせ生活サポートセンタークローバー、尾鷲市地域包括支援センター、紀北地域障がい者総合相談支援センター結、に相談員計6名(兼務)を配置した。

・相談件数：19 件

家庭裁判所や市役所、司法書士など関係機関と連携し、相談者に成年後見制度の情報提供や助言を行った。なお、専門性が高い事案に関しては、「尾鷲市成年後見制度利用促進協議会」において事例検討し、適切と思われる申立人や成年後見人等、また今後予測される問題について助言を受けた。

(ウ) 申立支援業務 申立支援件数：2 件

親族からの申立相談に対して、申立の流れや書類の書き方を説明した。

(エ) 担い手育成業務

令和6年度に引き続き、三重県内の自治体、司法機関、専門職団体、社会福祉協議会等の関係機関による「成年後見制度利用促進に向けた関係機関会議」に参加した。本会議では、県域での市民後見人養成研修実施に向け、カリキュラムや開催要項などについて他地域の実例を参考にしつつ意見交換を行った。また、「三重県権利擁護支援研修・調査企画会議」では、県域で取り組むべき課題について県内社協の意見を集約し、担い手育成に向けた協議および情報収集を行った。

加えて、「尾鷲市成年後見制度利用促進協議会」へ計5回出席し、地域における現状や将来予測、担い手の確保・育成について意見交換を行った。

② 法人による後見人等受任事業

令和7年度は受任件数の増減は無く、引き続き1件の受任ケースについて以下の後見事務を行った。

- (ア) 審判に基づく被後見人等の支援（身上監護・財産管理）
- (イ) 法人後見運営委員会の開催（令和7年度1回開催）
- (ウ) 内部監査の実施（年1回）
- (エ) 裁判所への定期的な事務報告

Ⅲ 高齢者相談係

地域包括支援センター

1. 包括的支援事業

(1) 総合相談支援

① 総合相談窓口の設置

新規相談件数

(単位：件)

相談内容	件 数
介護・日常生活に関する相談	494
介護サービスの利用に関する相談	207
医療サービスの利用に関する相談	39
生活費に関する相談	22
各種サービスの苦情に関する相談	3
権利擁護に関する相談	21
その他	11
合 計	797

(前年度新規相談件数：745 件)

② 輪内ランチ（輪内地区相談窓口）の開設（週 1 回）

(2) 権利擁護支援

① 高齢者虐待防止

相談受理件数 2 件（前年度 3 件）

② 権利擁護制度の活用支援

（ア）日常生活自立支援事業の利用援助

相談件数 1 件（前年度 2 件）

（イ）成年後見制度の利用援助

相談件数 10 件（前年度 8 件）

※ アセスメントの結果でニーズが判明することが多いため、上記新規相談件数（初回受付分）とは一致しない。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント

① 居宅介護支援事業者連絡会議

ケアマネジャーの後方支援に必要な事項について、居宅介護支援事業所の代表者による連絡会議を開催した。

第1回：令和7年6月13日（金）13：30～14：30（参加：11名）

第2回：令和7年8月14日（木）10：30～11：45（参加：12名）

② 居宅介護支援事業者研修会

ケアマネジャー同士の交流及び学びの機会を目的とした研修会を開催した。

（ア）研修会①

- ◆ 開催日：令和7年10月16日（木）
- ◆ 会 場：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール
- ◆ 参加者：21人
- ◆ 内 容：事例から学ぶ在宅医療と介護の連携について
- ◆ 講 師：グリーンケア専門士 氷上彩香 氏
- ◆ 事例紹介：在宅ケアグループあいあい 東加絵 氏
介護サービス海岸通り 岩本俱子 氏
居宅介護支援事業所あゆむ 堀端朋久 氏
居宅介護支援事業所あゆむ 山本智子 氏

（イ）研修会②

- ◆ 開催日：令和8年3月24日（火）
- ◆ 会 場：尾鷲市中央公民館1階視聴覚室
- ◆ 参加者：16人
- ◆ 内 容：精神科訪問看護について
- ◆ 講 師：訪問看護たいせつ 竹内弘幸 氏



（研修会①）



（研修会②）

③ 包括的なケアマネジメント支援

ケアマネジャーのみでは対応困難な支援ケースについて相談に乗り、ケース全体のマネジメント支援を行った。

- ◆ 相談対応件数 91件（前年度70件）

④ 地域ケア個別会議の開催

支援困難ケースについて多職種による個別会議を開催し、問題解決の方針を模索した。

◆ 開催件数 3件：（前年度2件）

⑤ テーマ型地域ケア会議の開催

地域課題が見える事例を持ち寄り、三重紀北消防組合を含む医療関係者や行政機関とともに課題の整理と課題解決に向けた意見交換を行った。

◆ 開催日：令和8年2月27日（金）

◆ 会 場：尾鷲市役所2階会議室

◆ 参加者：9人

◆ 内 容：身寄りがないケースを支援するうえでの問題点

◆ 助言者：片山総合法律事務所 弁護士 小林大輝 氏

⑥ 尾鷲市地域包括ケア推進協議会の開催

関係機関で構成する委員による会議を開催し、当地域における地域包括ケアシステムの構築状況について取り組み内容や課題を共有し、意見交換を行った。

（ア）第1回

◆ 開催日：令和7年6月19日（木）

◆ 場 所：尾鷲市中央公民館3階講堂

◆ 参加者：委員14名（欠席3名）

◆ 内 容：尾鷲市における地域包括ケアシステムに関する情報共有

（イ）第2回

◆ 開催日：令和8年3月23日（月）

◆ 場 所：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール

◆ 参加者：委員15名（欠席2名）

◆ 内 容：地域包括ケアシステムに関する共通理解



（テーマ型地域ケア会議）



（地域包括ケア推進協議会）

（4）介護予防ケアマネジメント

要支援認定者（介護予防・日常生活支援総合事業対象者を含む）に対して介護予防ケアマネジメントを実施し、要介護化の防止支援を行った。

◆ 月別の利用者数（ケアプラン作成数）（単位：件）

	自機関作成分	委託分	合 計
4 月	191	53	244
5 月	198	56	254
6 月	198	52	250
7 月	202	51	253
8 月	201	54	255
9 月	202	57	259
10 月	208	57	265
11 月	199	57	256
12 月	200	62	262
1 月	199	63	262
2 月	216	64	280
3 月	209	61	270
平 均	201	57	258
合 計	2, 423	687	3, 110

（前年度合計件数 2, 924 件）

(5) 認知症総合支援

① 認知症初期集中支援のしくみづくり

認知症専門医を中心として医療・福祉の連携チームを編成し、医療や福祉サービスにつながっていないケースに対して集中的支援を行うしくみづくりを行った。

- ◆ 認知症に関する相談 50 件（前年度 49 件）
- ◆ 認知症初期集中支援チームによる検討 11 件（前年度 14 件）
- ◆ 認知症初期集中支援チーム会議 12 回（前年度 12 回）
- ◆ 認知症初期集中支援検討委員会 1 回（前年度 1 回）

② 認知症カフェ「こもればカフェ」

認知症に関する学びや相談、つながりづくりを目的とした認知症カフェを開催した。

（単位：人）

回	開催日	催し	参加者
1	5 月 22 日	ミニ講座「認知症と向き合う」	21
2	7 月 24 日	ミニ講座「新しい認知症観」	19
3	9 月 27 日	新・認知症サポーター養成講座	61

4	11月20日	動画視聴「当事者の思い」	27
5	1月22日	服薬管理について	25
6	3月26日	寸劇「認知症初期の方への言葉選び」	21
合 計			174

(前年度：6回のべ187人)



③ 認知症サポーター養成講座

一般住民や企業・学校などを対象として認知症の周知・啓発を目的とした認知症サポーター養成講座を開催した。

(単位：人)

回	開催日	対象者	参加者
1	5月22日	尾鷲中学校2年生（職業体験）	4
2	8月27日	尾鷲市職員	134
3	9月27日	一般住民	61
4	10月14日	民生委員・児童委員	45
5	10月29日	尾鷲高校1年生	67
6	11月12日	紀北信用金庫職員	10
7	3月17日	輪内中学校2年生	8
8	3月18日	コープみえ紀北センター職員	15
合 計			344

(前年度：6回のべ151人)

④ 認知症サポーターステップアップ講座

- ◆ 開催日：令和8年3月10日（火）13：30～15：00
- ◆ 会 場：尾鷲市福祉保健センター3階講座室
- ◆ 参加者：13名
- ◆ 内 容：認知症当事者を中心とした地域づくり
- ◆ 講 師：尾鷲市地域包括支援センター認知症地域支援推進員

⑤ 第4回おわせアルツハイマーデーこもれば

- ◆ 開催日：令和7年9月27日（土）9：00～16：00

- ◆ 会 場：尾鷲市福祉保健センター
- ◆ 来場者：94 人
- ◆ 内 容：認知症サポーター養成講座、田中公人医師講演会、認知症カフェ、認知症当事者の作品展



(6) 家族介護者支援事業

① 介護者交流会

(単位：人)

回	開催日	内 容	参加者
1	6 月 25 日	おしゃべり喫茶	7
2	8 月 21 日	情報交換（ケアマネジャーについて）	6
3	10 月 23 日	リフレッシュお出かけツアー	4
4	12 月 11 日	情報交換（老人ホームについて）	11
5	2 月 26 日	おしゃべり喫茶	7
合 計			35

(前年度：4 回のべ 27 人)

② 家族介護教室

- ◆ 開催日：令和 7 年 9 月 11 日（木）13：30～15：00
- ◆ 会 場：尾鷲市中央公民館 1 階小会議室
- ◆ 参加者：7 名
- ◆ 内 容：訪問看護の特徴や活用のポイント
- ◆ 講 師：訪問看護ステーションよろこび 下地朋子 氏



Ⅳ 障がい相談係

紀北地域障がい者総合相談支援センター結

1. 紀北圏域障がい者地域生活支援事業

(1) 総合相談支援

令和 7 年度の相談実人数は 261 人であった。支援内容は福祉サービスの利用に関する相談支援が多く、自分の希望する暮らしや意向を実現するために、どのようなサービスがあるのか知りたいという相談が多かった。

本人・家族の高齢化が進む中で、これからの生活について共に考え、これまで利用していなかったサービスについて知り、利用を検討する機会となった。

◇障がい別 年間相談者実数（児・者） (単位：人)

区分	実人数	身体	重症 心身	知的	精神	発達	高次脳 機能	その他
尾鷲市	140	21	3	62	45	5	0	7
紀北町	121	11	0	73	34	3	0	2
計	261	32	3	135	79	8	0	9

◇支援方法別 相談延べ件数 (単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話 相談	電子 メール	個別支 援会議	関係 機関	その 他	計
尾鷲市	1,560	615	212	1,191	9	201	696	48	4,532
紀北町	1,756	226	151	1,081	76	136	463	30	3,919
計	3,316	841	363	2,272	85	337	1,159	78	8,451

◇支援内容（延べ件数） (単位：件)

内容	尾鷲市	紀北町	計
福祉サービスの利用に関する支援	1,888	2,084	3,972
障がいや症状の理解に関する支援	589	427	1,016
健康・医療に関する支援	385	365	750
不安の解消・情緒安定に関する支援	448	278	726
保育・教育に関する支援	59	21	80
家族関係・人間関係に関する支援	183	119	302

家計・経済に関する支援	200	127	327
生活技術に関する支援	110	103	213
就労に関する支援	252	119	371
社会参加・余暇活動に関する支援	261	186	447
権利擁護に関する支援	6	4	10
その他	151	86	237
計	4,532	3,919	8,451

（２）権利擁護のための必要な援助

三重県障がい者虐待防止・権利擁護研修（市町及び障がい者虐待防止センター職員）を受講して、基幹型支援センターの職員が虐待防止に関する認識を持って、障がい者の個性や人格を尊重し、権利擁護となる様に活動を行った。日々の相談支援の中でもネグレクト、精神状態の病状変化から起こり得る、周りとのトラブル等を未然に起きないように支援を行い、権利擁護の視点を持って継続的な支援を行った。権利擁護に係る制度・事業の利用促進に向けた取り組みとして、日常生活自立支援事業の紹介、成年後見制度の紹介を踏まえた支援を行った。また、尾鷲市成年後見制度中核機関の活動としては、制度の周知活動として「医療・福祉関係者のための成年後見制度活用講座」と題した研修会実施に参加。関係機関への広報機能・相談機能等の活動を行った。

また、市内小・中学生を対象に、車いす体験や視覚障がい者の理解について福祉の授業を行い、障がい者の事を知ってもらう事で、思いやりのある地域づくりや、誰もが住みやすいまちづくりについて理解を深めてもらった。



（小学校 福祉授業）



（中学校 福祉授業）

(3) 地域における相談支援体制強化と人材育成

地域の指定特定相談支援事業所及び指定障がい児相談支援事業所に対して、社会資源の情報提供、加算・報酬単価の情報提供、その他申請手続きに関する支援を行った。基幹型支援センターとして、支援の方向性について相談を受けたケースについては、相談支援専門員に対しての助言を行った。高齢障がい者等の相談では、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、ヘルパー事業所との連携を図り、地域の相談支援専門員・介護支援専門員等との横の関係構築も図った。

相談支援専門員初任者研修受講生 3 名、相談支援専門員現任者研修受講生 1 名の地域実習の受け入れを行い、地域での支援者の育成に努めた。

また、新たに圏域内に開設された相談支援事業所の職員と同行訪問を行い、ケースに対しての助言を行った。

(4) 紀北地域協議会の運営支援・部会活動

地域の実情に応じた体制整備について、官民共同で協議が行われる地域協議会の運営支援・部会活動として、こころ部会、就労部会、相談支援部会の 3 部会を開催。また、障がい者の避難訓練を行い、防災意識への継続した取り組み実施した。

令和 7 年度 紀北地域協議会部会活動

部会名	取組内容
こころ部会	精神科病院や施設入所者の方の地域移行・地域定着について部会を継続。地域で生活をしていくために必要な課題を洗い出す事例検討を行った。部会の中で、地域資源について新しい情報を整理する必要があるという意見があった。以前作成した福祉マップの「紀北地域しえんのわ」の更新を進める。令和 8 年度中の完成を目指す。
就労部会	1 回目は令和 6 年度の就労実績の報告と現状の障がい者求人について意見を交わす。また、就労継続支援 B 型事業所職員対象の研修会の継続と令和 7 年 10 月より始まる就労選択支援事業について確認を行った。 2 回目は三重県障がい者就農促進協議会の担当者を講師に招き、農福連携についての東紀州地域の活動の報告を受け、意見を交わした。
相談支援部会	圏域内の相談支援事業所、市町担当者が参加。日々の計画相談の際に課題と感じたことを共有し意見交換を行い、相談支援事業所間のネットワーク作りを行った。

	・尾鷲市・紀北町での紀北圏域のルールを確認 ・介護保険と障がい福祉サービスの併用の際の注意点を確認。 ・圏域内の事業所で主任相談支援専門員の資格を取得し配置した事、今後の連携についての話し合いを行った。
避難訓練	第1回：令和7年9月20日（土） 尾鷲市開催 参加者12名 防災セット確認・持ち出し品の作成、防災すごろく、外出先での避難経路の確認。 第2回：令和8年2月12日（木） 紀北町開催 参加者6名 防災持ち出し品の作成。地震・津波発生を想定して、紀北町社協海山支所から裏山の引本公園への避難。避難行動の訓練を行った。

（５）ピアサポーター活動支援

住み慣れた地域での生活をより豊かなものとするために、社会との接点や様々な体験の機会を持てるよう「共通の経験と関心をもつ仲間同士の相互支援」を基本とするピア活動支援に取り組んだ。尾鷲市と紀北町で、月2回行う「すずらんサロン（日中の居場所作り）」の活動を行った。延べ人数で尾鷲市42人、紀北町19人、合計で61人の参加があった。

また、尾鷲市身体障がい者互助会の活動支援については、尾鷲市ふれあいスポレク祭の主催として活動し、会員数が少ない現状であるが、外出活動・食事会を開催し、会員同士の交流を深める活動を行った。その他、会員宅を訪問し健康を確認する訪問活動も継続した。



（すずらんサロン）



（身体障がい者互助会交流会）

2. 障害者就業・生活支援センター事業及び障がい者就業・生活支援事業

国の雇用安定等事業である就業・生活支援センター事業と三重県の障がい者就業・生活支援事業では、人口減少に比例して新規登録者、ハローワークの障がい者求人も減少傾向であるが、就職件数と職場実習の目標件数は達成する事が出来た。

普通高校在校生への就労支援として、卒業年度の学生の個別懇談会や支援者間のケース会議に参加し情報共有を行った。卒業後の進路に向けて本人・家族と企業の見学、ハローワークへの同行、職業センターの職業評価、福祉サービス事業所の見学等の支援に関わった。

① 就労登録者数

(単位：人)

登録者数	身体	知的	精神	その他 (難病)	計
新規	2	4	12	1	19
継続	34	73	76	9	192
合計	36	77	88	10	211

② 就労実績

(単位：人)

障がい種別 1週間の 勤務時間数	身体	知的	精神	その他	計
一般(30時間以上)	0	1	6	1	8
20時間以上 30時間未満	0	0	4	0	4
20時間未満	0	0	3	0	3
計	0	1	13	1	15

③ 市町別就労実績

(単位：人)

区分		(内訳)				計
		身体	知的	精神	その他	
内 訳	尾鷲市	0	0	5	0	5
	紀北町	0	1	8	1	10
圏域合計		0	1	13	1	15

④ 相談支援件数（内容別）

（単位：件）

内 容	身体	知的	精神	その他	計
就職に向けた相談支援	18	206	352	26	602
職場定着の為の相談支援	17	196	289	13	515
日常生活に関する相談支援	73	382	201	4	660
就業と生活に関する相談支援	1	15	6	1	23
計	109	799	848	44	1,800

⑤ 相談支援件数（手段別）

（単位：件）

内 容	身体	知的	精神	その他	計
来所	6	164	137	5	312
オンライン・電話・電子メール等	54	387	418	24	883
職場訪問 （定着支援、職場実習支援を含む）	16	78	185	11	290
家庭・利用施設への訪問	10	34	20	1	65
その他（ハローワーク・医療機関への同行、年金事務所への同行等）	23	136	88	3	250
計	109	799	848	44	1,800

◇在職者交流会・ピアサポート活動 研修会

（単位：人）

開催日	内容	参加人数
令和7年6月28日	在職者交流会 「特殊詐欺等被害防止演劇・身近に潜む闇バイト「トクリュウ型」犯罪について」	9
令和7年12月3日	ピアサポート活動 「歯と口の健康づくり ～正しい歯のみがき方～」	9
令和8年3月7日	在職者交流会 「フライングディスク体験会」	8



（特殊詐欺等被害防止演劇）



（歯と口の健康づくり）



（フライングディスク）

◇地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等の実施

(単位：人)

開催日	内容	参加人数
令和7年10月17日	研修会 「障がい者就業・生活支援センターの役割及び福祉制度の説明会」	25
令和7年11月15日	研修会 「障害者福祉施設従事者等による障害者虐待の防止について」	13
令和8年2月4日	研修会 「就労継続支援B型事業とは？」	11
令和8年3月11日	セミナー 「地域で支える「障害者雇用」実践セミナー」	2

3. 障がい者社会参加促進事業及び生活支援事業

(1) 生活訓練事業

視覚障がい者の方の歩行訓練や、自宅を訪問しての専門的な福祉用具の利用支援、録音機器・パソコン・携帯電話の操作練習等の日常生活の訓練を行った。

・開催12回 視覚障がい者1人 延べ参加人数12人

(2) フラワーアレンジメント教室

講師の指導のもと、季節に応じた生花や材料を用いたフラワーアレンジメントによる創作活動により、ストレスの軽減、集中力の向上や創造性を育んだ。

・開催12回 延べ参加人数189人

(3) 点字・声の広報発行事業

音訳ボランティアの方によって音声録音した広報おわせを届けて、視覚障がい者の方に行政情報をお知らせした。

・実施12回 視覚障がい者1人 延べ配布人数12人

(4) 音楽教室

音楽療法士の指導のもと、楽器演奏や合唱・リズム遊び等を行い、参加者・家族の交流を深めた。

・開催 12 回 延べ参加人数 46 人

(5) 尾鷲市ふれあいスポレク祭

スポーツレクリエーションを通して交流を深め、障がいの有無に関わらず参加者が互いの事を考え交流を深める機会として、障がい者支援事業所・ボランティア団体・小中学生と協働で開催した。

・令和 7 年 11 月 29 日（土）開催

障がい者 47 人 ボランティア 10 団体 69 人

福祉協力校 5 校 24 人 その他 56 人 合計 196 人



（音楽教室）



（ふれあいスポレク祭）

4. 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業・指定一般相談支援事業

障がい福祉サービス利用に必要な計画作成・モニタリングを行った。相談支援専門員の不足から、計画作成の依頼をすぐに受けることができないケースが出て来ているため、相談支援専門員の確保が現在の課題である。

利用計画・継続支援 作成件数 (単位：件)

	利用計画	継続支援
尾鷲市	94	149
紀北町	90	148
圏域外	6	18
計	190	315

5. 各種関係機関との連携・会議等

三重県障がい者虐待防止・権利擁護研修（市町村等職員コース）
三重県基幹型相談支援センター連絡会議
三重県精神障がい者地域移行・地域定着連絡会
三重県南部医療的ケア地域支援連絡会議（みえる輪ネット）
三重県談支援体制検討会議
重症心身障がい児者相談相談支援事業（尾鷲総合病院）
尾鷲市成年後見制度利用促進協議会
尾鷲市要保護児童対策協議会実務者会議
尾鷲地域精神保健福祉危機対応ネットワーク連絡会
尾鷲・紀北地域精神担当者情報共有会議
東紀州地域依存症ネットワーク会議
紀北町障がい者福祉団体連合会議
東紀州くろしお学園おわせ分校移行支援会議
就労アセスメント結果報告会議
ゆめ向井工房保護者会（七の華会）総会
地域連携推進会議
ひきこもり当事者家族カフェ（こもりカフェ）
三重労働局障害者就業・生活支援センター連絡会議
三重県障がい者就業・生活支援事業連絡会議
三重県教育委員会高校生就労支援ネットワーク会議
三重県障害者就業・生活支援センター連絡協議会みえーる
障害者就業・生活支援センター中部・北陸ブロック経験交流会議
特定非営利活動法人全国就労支援ネットワーク 第26回定例研究・研修会

V 居宅介護支援係

居宅介護支援事業所

介護保険の理念に基づき、要支援、要介護状態にある利用者の意思を尊重し、住み慣れたご自宅などで、できるだけ自立したその人らしい生活を営むことができるよう、医療・福祉の関係機関と連携し、総合的に支援を行った。

1. 職員体制

主任介護支援専門員 3 名 介護支援専門員 1 名

2. 業務内容

1. 利用者、家族の在宅生活、在宅介護の支援

利用者、家族の心身の状況や、おかれている環境に応じてニーズを把握し、自立した日常生活を送ることができるよう、最善のケアプランの提案に努めた。

2. 居宅サービス計画の作成

在宅生活について、利用者及びご家族の意向を尊重し、望む生活に近づけるようケアプランを提案し作成した。医療との連携について、退院時には医師、病院関係者とのカンファレンスに参加し、円滑に在宅生活に復帰できるように支援した。

また、利用者の立場に立ち、提供されるサービスが特定の種類やサービス事業所に偏ることのないよう、公平中立の立場を保ち支援を行った。

(1) 新規利用者の確保

(単位：人)

	令和7年度	令和6年度
居宅新規	22	41
居宅終了	51	43
※内訳（死亡）	22	12
（入所・入院）	17	25
（移動）	11	5
（改善）	1	0
（転居）	0	1
（支援に移行）	0	0
予防給付 新規	4	4

【利用者増減の状況表】

(単位:人・%)

構成 (介護度別)	令和7年度・実績		令和6年度・実績	
	人数	割合	人数	割合
要支援・総合	115	7.5%	178	10.0%
要介護 1・2	989	64.6%	1,171	65.7%
要介護 3～5	428	27.9%	433	24.3%
計	1,532	100.0 %	1,782	100.0%

(2) 月別請求額

◇居宅介護支援費

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	116	116	130	122	120	122
収入額	1,878,870	1,894,620	2,112,600	1,963,790	1,934,650	1,965,540

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
119	119	122	113	107	111	1,417
1,929,330	1,920,330	1,965,040	1,823,160	1,713,240	1,780,020	22,881,190

(前年度) 利用者人数 1,600人 収入額 25,708千円

◇予防居宅介護支援費

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	9	13	11	10	10	9
収入額	42,480	67,360	51,920	47,200	47,200	42,480

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	10	10	10	7	6	115
50,200	47,200	47,200	47,200	33,040	28,320	551,800

(前年度) 利用者人数 99人 収入額 512千円

【尾鷲市包括支援センター委託分】

◇介護予防ケアマネジメント費

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	3	2	2	2	3	3
収入額	13,260	8,840	8,840	8,840	18,760	13,260

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
3	2	2	2	2	2	28
13,260	8,840	8,840	8,840	8,840	8,840	129,260

(前年度) 利用者人数 46 人 収入額 214 千円

3. サービス提供機関との連携

各サービス事業所への訪問や、電話や書面による連携を図り、利用者の情報共有に努めた。また、病院と地域の連携を目指した研修に参加し、グループワークで多職種の参加者と交流を深めた。

4. 介護支援専門員実務研修実習生受け入れ事業

令和7年度ケアマネ試験合格者を受け入れた。(1件)

5. 介護保険要介護認定調査

市外保険者より委託を受け、認定調査の資格を持った職員が認定調査を行った。(1件)

6. ケアマネジメントの質の向上を図る

1. 居宅事務所内でのミーティングを実施

サービス提供にあたっての留意事項、困難事例ケース検討会、保健医療及び福祉に関する諸制度、地域における事業者や活用できる社会資源の共有など、週1回程度行った。

2. 居宅介護支援連絡会・各種研修への参加

介護支援専門員としての意識向上、援助技術のスキルアップを図った。

Ⅵ 介護サービス係

訪問介護事業所

「ずっとうちで暮らしたいを応援」を合言葉に支援を行った。

1. 訪問介護・総合事業訪問型サービス(介護保険)

支援が必要な方を対象に、介護職員が自宅を訪問し、身体介護および生活援助サービスを提供した。利用状況については、総合事業訪問型サービス(介護度が軽い方向けのサービス)については前年度と比較して減少傾向であるものの、訪問介護の利用者が増加したため、全体としては堅調に推移している。なお、要介護者と要支援者の割合は7：3となっている。

サービス内容

- 身体介護：食事介助、通院介助、入浴介助、排泄介助、体位変換
その他の身体介護
- 生活援助：調理、洗濯、買物、掃除、その他の家事援助
- 身体介護と生活援助の組み合わせ
- 通院等のための乗車または降車の介助

◇訪問介護月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	63	60	63	72	70	75
収入額	2,664,670	2,689,190	2,993,610	3,289,940	2,826,840	2,940,260

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
78	76	77	78	70	79	861
3,342,040	2,828,390	3,073,160	2,746,700	2,513,080	2,817,910	34,725,790

(前年度) 利用者人数 814 人 収入額 31,705 千円

◇総合事業訪問型サービス月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	26	27	26	25	25	28
収入額	322,890	343,070	319,220	362,810	371,270	376,610

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
27	27	27	28	32	31	329
372,010	348,050	363,380	343,760	404,180	425,080	4,352,330

(前年度) 利用者人数 350 人 収入額 4,611 千円

2. 障害者総合支援事業

障害者総合支援法に基づき、居宅介護、重度訪問介護、移動支援の各障害福祉サービスを提供した。施設入所などにより減収となった。

◇月別単位数（実績月）

（単位：人・円）

利用人数	25	23	24	21	24	22
収入額	871,880	841,280	909,310	797,040	872,780	875,260

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
22	22	22	20	22	20	267
875,260	834,670	739,790	636,300	612,210	631,380	9,497,160

（前年度） 利用者人数 309 人 収入額 11,205 千円

3. 生活支援サービス「あんしん」と一般乗用旅客自動車運送事業

生活支援サービス「あんしん」を自主事業として行った。また、車輛を使用した支援を、一般乗用旅客自動車運送事業として実施した。

◇あんしん月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	10	10	9	6	4	9
収入額	18,400	14,400	24,100	14,100	11,200	21,600

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
13	11	11	10	7	7	107
32,300	15,700	31,400	16,500	19,700	20,800	240,200

（前年度） 利用者人数 90 人 収入額 189 千円

◇運行利用料月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	50	49	52	52	56	59
収入額	104,500	108,200	98,230	110,250	104,450	119,600

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
63	61	62	56	52	55	667
130,500	97,950	123,400	101,350	99,650	116,600	1,314,680

（前年度） 利用者人数 673 人 収入額 1,461 千円

4. 人材育成に関する取り組み

(1) 研修

- ハラスメント・虐待(身体拘束含む)
- 非常災害・感染症(BCP 含む)に関する研修・訓練
- 交通安全
- 腰痛予防対策
- 熱中症対策
- 生産性向上ビギナーセミナー
- 「トクリュウ型」犯罪について学ぶ
- 介護技術
- 就労継続支援B型事業の理解と連携について
- ほのぼのウェビナー研修
- ケアプランデータ連携システムの導入に向けて



(2) 定例会議及びチーム会議

定例会議では、各チームで抱えている困難ケースについて、検討や対応方法の協議等を行った。また、法改正等の情報共有、事業所全体で取り組むべき課題の洗い出しや検討を行い、事業所運営に活かした。

チーム会議では、各利用者の情報共有を行うとともに、研修や訓練を実施した。

訪問入浴事業所

1. 訪問入浴・介護予防訪問入浴（介護保険）

紀北地域唯一の訪問入浴事業所として、看護職員、介護職員、運転手が緊密に連携し、利用者の身体状況に合わせた安全かつ快適な入浴サービスを提供した。

継続的な新規申し込みがあったものの、入院や施設入所などによる利用停止、短期間利用等により微減となった。

（１）サービス内容

- ① 看護職員による健康チェック
- ② 衣服の着脱介助
- ③ 浴槽への安全な移動介助
- ④ 入浴介助
- ⑤ 在宅介護相談



（２）事業効果

住環境や本人の身体状況により、自宅の浴槽で入浴することが困難な方に対し、浴槽を持ち込みチームで対応することで、清潔の保持、血行促進、新陳代謝の上昇、リラックス効果など生活の質を向上することができた。

◇訪問入浴介護 月別実績

（単位：人・円）

利用人数	6	8	10	14	11	14
収 入 額	580,550	592,840	710,440	908,840	803,210	903,150

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14	14	13	9	8	9	130
1,009,490	736,020	708,870	524,540	607,190	648,450	8,733,590

（前年度） 利用者人数 188 人 収入額 9,177 千円

デイサービスセンターいきいき

1. 地域密着型通所介護・総合事業

利用者が可能な限り、住み慣れた自宅でその人らしい自立生活を営むことが出来るよう利用者、家族の意向を尊重しながら楽しく通所することで、心身機能の維持・運動機能の向上を目的に提供した。半日ならではの特色を生かし、短時間で楽しめるデイサービスとしての役割を果たせるよう努力した。

(1) サービス内容

- ① 送迎サービス・バイタルチェック
- ② 脳トレ（パワーポイントを使用し、脳トレ・季節や行事などのクイズ）レクリエーション
- ③ 体操（呼吸体操・口腔体操・発声練習・早口言葉・ストレッチ・タオル体操・ボール体操・有酸素運動・棒体操・リズム体操等）
- ④ 身体の介助・支援（移動介助・見守りなど）
- ⑤ 日常生活の相談・助言
- ⑥ 足浴サービス
- ⑦ 入浴介助
- ⑧ 個別運動器機能向上サービス
（作業療法士による運動メニュー作成）



※⑥ ⑦ ⑧に関しては選択的サービス

（DVD を用いて体操を行う）

◇地域密着型通所介護 月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	16	16	16	17	14	12
収入額	444,140	497,570	553,610	465,020	354,570	350,790

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
13	14	14	12	15	14	173
364,240	346,890	379,530	331,320	392,380	401,810	4,881,870

（前年度） 利用者人数 207人 収入額 5,942千円

◇総合事業 月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	4	5	5	6	5	5
収入額	117,060	155,660	136,480	152,920	136,480	136,480

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6	6	6	7	7	9	71
175,590	155,900	155,600	175,320	194,740	214,160	1,906,390

(前年度) 利用者人数 82人 収入額 2,342千円

2. 一般介護予防事業（受託事業）

(1) 一般介護予防教室

尾鷲市から委託を受け、市内在住の65才以上の方を対象とした6カ月単位の介護予防教室を開催した。

(単位：回・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催回数	8	8	8	8	8	8
収入額	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8	8	8	8	8	8	96
200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	2,400,000

(前年度) 実施回数 93回 収入額 2,325千円

3. その他

(1) 地域密着型運営推進会議の開催

令和7年9月17日 参加者4名

令和8年3月24日 参加者4名

(2) 消火訓練・避難訓練の実施

デイサービスの実施中に非常災害が発生したことを想定し、年2回の避難訓練を実施し、災害時においても利用者の安全確保を出来るか検証した。

地震想定避難訓練 令和7年 9月18日実施

火災想定避難訓練 令和8年 3月 6日実施

Ⅶ 輪内高齢者サービスセンター

1. 社会福祉協議会の分室機能

輪内地区の福祉事業の向上を図るため、次のような事業を行った。

①募金事業の窓口として事業を実施

5月 日赤募金 10月 共同募金

②社協相談窓口業務として地域住民の方から相談を受け、地域住民と関係事業所との連携を図った。

2. 輪内地区食の自立支援事業（委託事業）

市から食の自立支援事業の委託を受け、利用者の健康維持促進や食生活管理及び安否確認を目的として、65歳以上の高齢者の世帯で調理が困難な方を対象に、季節感を取り入れるなど献立に留意し、週3回（火、木、土）各家庭に配食を実施した。

対象地区	輪内地区
登録者数	37名
延べ配食数	4,220食
事業費 (内市補助分)	2,834,800円 (1,146,800円)

・地区別登録者内訳人数

(梶賀3、曾根6、賀田8、古江8、三木里4、三木浦8)

3. 輪内地区あったか弁当事業（自主事業）

市の食の自立支援事業の対象外となる65歳未満の方が同居している世帯の方を対象に、自主事業として年間69食の配食サービスを実施し、調理が困難な方の負担軽減に努めた。

4.地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業、障がい者通所介護

利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、孤立感の解消や心身機能の維持、家族の介護の負担軽減などを目的として、要支援、要介護、障がい者の方を対象に、日常生活上のお世話や脳トレ・体操・レクリエーションなど、社会とのつながりを持つ意欲を高めるため通所介護を実施した。



《サービス内容》

- ①送迎サービス
- ②生活指導（健康チェック、音楽鑑賞、レクリエーション、創作活動）
- ③入浴サービス（機械浴、一人浴、一般浴）
- ④食事の提供

（月別実績）

【地域密着型通所介護】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
請求件数	26	24	29	26	24	25
収入額	1,850,179	1,834,817	1,686,483	1,801,519	1,922,436	1,777,149

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
23	21	20	20	23	21	282
1,723,968	1,288,971	1,348,839	1,287,711	1,303,083	1,512,891	19,338,046

【介護予防・日常生活支援総合事業】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
請求件数	4	5	3	3	3	3
収入額	119,583	156,411	53,379	53,379	147,312	83,916

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
3	3	5	5	5	5	47
85,077	83,916	156,411	156,411	152,937	156,411	1,405,143

【障がい通所介護】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
請求件数	1	1	1	1	1	1
収入額	22,310	37,180	29,750	29,750	37,180	29,750

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1	1	1	1	1	1	12
22,310	37,180	29,750	29,750	22,310	29,750	356,970

(前年度) 実人数 収入額

地域密着型通所介護 323 名 19,794 千円

介護予防通所介護 56 名 1,731 千円

障がい者通所介護 24 名 757 千円

5.一般介護予防事業（委託事業）

市の一般介護予防事業の委託を受け、65 歳以上の高齢者を対象として、介護を必要とする状態が生じる前に、介護予防に関する知識の普及・啓発や、運動機能の向上、閉じこもりの解消など、介護予防事業を週 3 回、年間 110 回実施した。

(月別請求額)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
開催回数	5	8	8	8	9	10
実人数	6	6	6	6	11	11
収入額	125,000	200,000	200,000	200,000	225,000	250,000

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
11	11	9	10	11	10	110
11	12	12	11	11	11	114
275,000	275,000	225,000	250,000	275,000	250,000	2,750,000

(前年度) 開催数 129 回

実人数 114 名

収入額 3,225 千円

6.その他

(1)運営推進会議

運営推進委員のご意見やご提案をデイサービス業務に取り入れ、円滑な運営に努めた。

- ・令和 7 年 5 月 28 日：出席者 5 名
- ・令和 7 年 11 月 20 日：出席者 5 名

(2)火災消火避難訓練、津波避難訓練

災害が発生した際に利用者の安全を確保するため、年 2 回避難訓練を実施し、冷静な判断や迅速な行動により、円滑に避難できるかを検証した。

- ・火災避難訓練：令和7年11月11日 参加者13名
- ・地震津波避難訓練：令和8年3月17日 参加者13名